

大潟村など3者連携協定 **金芽米を学校給食に**

大潟村と村カントリーエレベーター公社、東洋ライス（東京）は、高付加価値化した村産米を軸とした住民の食育や健康増進に関する包括連携協定を結んだ。東洋ライスの精米技術によって栄養とうまみ成分を多く残したコメ「金芽米」を、村内の学校給食で提供する。東洋ライスが同様の協定を結ぶのは、美郷町とJA秋田おばこ（大仙市）の2者と結んだ事例に続き県内2例目。

村内のコメを集荷するカントリーエレベーター公社は東洋ライスの精米機械を導入し、金芽米を月1～2ト生産する。金芽米は東洋ライスが商標登録している。

協定により金芽米を活用した各種取り組みを推進。村産の有機栽培米を加工した金芽米を4月から学校給食で提供するほか、村民向けの学習会を通じて食への理解を深める。また、道の駅や宿泊施設で販売するほか、村のふるさと納税返礼品として展開する考え。製造過程で生まれる有機質肥料を村内の稲作に活用し、循環型農業の推進も図る。

24日に村役場で行われた締結式で、高橋浩人村長、カントリーエレベーターの小玉公彦社長、東洋ライスの阪本哲生副社長が協定書に署名した。高橋村長は「金芽米は栄養価が高く、（給食で食べた）子どもたちが元気に成長することを願う。付加価値の高いコメを生産販売し、村産米の価値向上につなげたい」とあいさつした。

小玉社長は「協定による取り組みを通じて、コメや農業の価値を次世代に伝えたい」、阪本副社長は「農業振興や学校給食などの実現に向けて協力していく。コメには未知の力がある。生産者の意欲向上にもつながればうれしい」と述べた。（阿部拓郎）



（令和8年3月30日（月）秋田さきがけ新聞より一部抜粋）